

感染防止のためのリコーダーの扱い方及び演奏の仕方

全日本リコーダー教育研究会

1 リコーダーの扱い方

【リコーダーを演奏する前に】

○演奏の前にうがい手洗いをする。

【演奏中に気を付けること】

○楽器の貸し借りはしない。

○水滴が出たら布でふき取る。

○リコーダーを振り回すなど、水滴の飛ぶ行為はせず、楽器を大切に扱う。

【リコーダーを演奏した後は】

○学校でのお手入れ(水滴の取り方、お手入れの布の扱い等)

・水道水で洗い流す→リコーダーを水道水で洗い、そうじ棒にガーゼをつけてリコーダーの内側や外側を拭く。

・楽器に水がつまった時（ウインドウェイが結露した時の水抜きも）に、息を吹き込む時は、布を頭部管の窓に当てることを習慣化しましょう。（写真参照）

○楽器を吹き終わったらうがいをして手を洗う。
楽器は常に清潔に保つ。

○月に1～2度の自宅でのお手入れ
（ぬるま湯でのつけおき洗い等）



〔写真 布を当てての水抜きの様子〕

2 リコーダーの演奏の仕方

【リコーダーを演奏する前に】

○丁度良い息の強さを学習する。（例えば人差し指にそっと一定の息を流す練習）
（友達の耳元でささやくように）

○マスクをつけてタンギング唱を繰り返して練習する。

（タンギングは破裂音のためマスクをしないと飛沫が飛びます。ただしリコーダーで実際に演奏する場合は口腔内での破裂のため飛沫は外にでません。）

○無声音（ひそひそ声）によるタンギング唱で、ささやくような息づかいも同時に習得出来

るようにする。

(トゥ、ティ、トなど ひそひそ声で) (タンギング唱を有声音と無声音の両方で行う)

【リコーダーを演奏する場合は】

- 友達との間隔を1 m以上開ける。(できるだけ前後左右)
- マスクを外したら、声に出さずに、リコーダーに口を付けてお話し(タンギング)する。
- リコーダーを口に付けていない時は、マスクを付けてお話しする。
- 演奏しない時は楽器を自分で持ち、他に触れないようにする。
専用の首掛けストラップなどがあれば活用する。

【演奏のコツ】

- リコーダーに強く息を吹き込むのではなく、息の流れに声をのせて歌う時のように息を流す。
- 頭声発声のように(鼻腔・口腔・咽頭・胸腔に)体に響かせるイメージで演奏する。
- タンギングは歯の裏側ではなく、歯の根元あたり上顎に舌を当てて発音する。

【その他】

- 音孔(トーンホール)にも飛沫が付着している可能性があります。演奏後もリコーダーと手を洗ってからガーゼなどの布で拭くことをお勧めします。ガーゼもよく取り替えることが必要です。
- 窓を開けた時やエアコンを使う場合は風向の確認が重要です。
風下に位置する児童は感染しやすいと推測できます。風向を見極めて風下にいる児童は少し離れた方が良いと思います。

※演奏の仕方については、

元横浜国立大学、元東京藝術大学講師 リコーダー奏者 吉澤 実先生のご意見をもとに
楽器の扱い方(写真含む)については、
トヤマ楽器製造株式会社ホームページ「リコーダーお手入れマニュアル①」から
それぞれご許可をいただいて引用し、作成しました。